



伊藤永之介寸話

秋田県立図書館 館長 菅原 敏紀



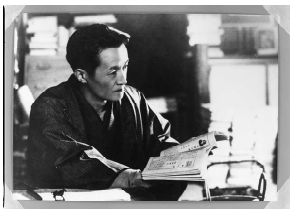
昨年七月、農民文学作家伊藤永之介のご令孫である善養寺幸子さんから、県立図書館に直筆原稿及び創作ノート、著作の数々、雑誌に掲載された作品の切抜等百点の寄贈がありました。当館が所蔵する伊藤永之介文庫は六百六十二点まで増えましたが、奇しくもその日は永之介の命日（ふくろう忌）でした。そして今年、伊藤永之介生誕百二十年を迎え、『秋田魁新報』では出世作として知られる「梟」を再録連載する等、再びその作品に関心が集まっています。

さて先程の寄贈資料の中に、永之介作品を論じた各新聞の文芸時評の切り抜きが多数入っている袋がありました。伊藤整、武田泰淳と言った当時の批評家諸氏が「なつかしい山河」「早場米」等を取り上げ、概ね好意的な評価をしています。永之介はその切り抜きに赤鉛筆で傍線を引いたり色々書き込みをしています。自作の評判にこれほど目を配っていたことに、驚きの念を覚えながら読み進めるうちに、そう言えば『朝日新聞』紙上で、永之介と武田泰淳との間で交わされた農民文学論争があったことを思い出しました。気になり、紙袋の中を探しましたが見当たりません。ようやく、以前から伊藤永之介文庫に収められている新聞記事のスクラップブックの中に、目当ての記事を発見しました。

ことの起こりは野間宏、埴谷雄高等と並ぶ第一次戦後派作家として知られる武田泰淳が、昭和二十八年七月五日『朝日新聞』に「日本を知らない日本人」を発表し、「一工場のストライキは記録できて、工業小説となると、容易に書けるものではない。農村小説がつまらな

いのは、手法その他、自然主義時代から一歩も前進できないで、展望のひろい農業小説まで発展できないためである（後略）」と十把一絡げに農民文学批判を展開したことです。同月二十九日『朝日新聞』に、永之介は「罪は文壇にあり 農民小説はなぜ出ないか」を発表し、都会偏向の戦後文壇において農村小説はつまらないどころか、わずかな例外を除いて存在しない現状と、対岸の火事のように高みの見物を決め込む武田のような文壇作家の姿勢こそが大問題なのだと激しく反論しました。それを受けて多くの投書が寄せられ、論争に幕が下りたのは、十月十三日『朝日新聞』で永之介が「農民の求める農民文学」たくさんの投書を読んで」を発表した後でした。

ちなみに武田泰淳は「私の創作体験」で、「農民文学について去年議論が起こって伊藤永之介さんが、ぼくのうっかり書いたものに腹を立てられた。ぼくは決して農民文学者を軽蔑したことはないし、農民作家が悪いといった覚えはないが、伊藤さんはたいへん腹を立てられた。それも無理はないので、伊藤さんは長いこと苦勞していられるのに若造が出てきて、農民文学が進歩してないということをいったのだから、怒られたわけである（後略）」と、反省の弁を述べています。



横手疎開時の写真

永之介は講演会やラジオ番組のインタビューで、頷く以外は殆ど言葉を発しなかったというエピソードがあります。伝説的なまでの寡黙さのせいか、永之介がマグマのように激しく滾る怒りを内面に秘めた作家であつたことはそれほど知られていません。

農民文学論争において永之介が武田泰淳に向けた怒りとは、戦前、戦後を通して秋田の農村の悲惨な現実と真摯に向き合い、深い問題意識をもって作品を書き綴った永之介の矜持のあらわれと言つてよいものです。そういった永之介の思いも含め、作品世界に共感する読者が、生誕百二十年を契機に一人でも多くなってほしいと心から願っています。

図書館をもっと便利に ーYouTubeチャンネル・サピエ図書館のご案内ー

県立図書館では、県民の生活、仕事、文化、読書活動を積極的に支援し、より多くの人が必要な情報を得られるよう、サービスの充実を図っています。今回は、昨年度から今年度にかけて新たにスタートした取り組みについてご紹介します。

県立図書館YouTubeチャンネルのご案内

県立図書館のYouTubeチャンネルでは、令和4年10月27日から図書館での本の探し方や、各コーナー・サービスのご案内動画を公開しています。令和5年11月1日(水)からは、新作2本の公開もスタートしました。

公開中の動画(合計8本)

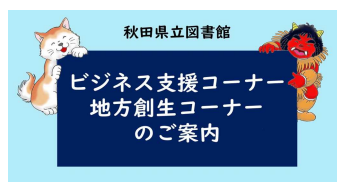
- ・【NEW!!】ビジネス支援コーナー・地方創生コーナーのご案内
- ・【NEW!!】teens' コーナーのご案内
- ・本を上手に探すコツ①図書館の本の並び方を知る
- ・本を上手に探すコツ②検索用パソコンを使いこなす
- ・本を上手に探すコツ③レシートの見かたを知る
- ・えほんのへやのご案内
- ・新聞コーナーのご案内
- ・活字を読むことが困難な方へのご案内

下記URLまたはQRコードより、ぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/channel/UC91b5vqrWEBtDVj3-U4EAA>



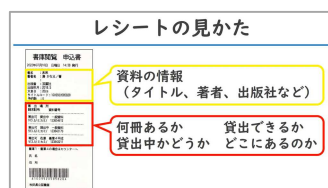
Youtubeチャンネル
QRコード



動画の一例



「teens' コーナー」の
一場面



「本を上手に探すコツ」の
一場面

サピエ図書館のご案内

視覚や身体の障害などで読書が困難な方のためのインターネット図書館、「サピエ図書館」をご存じですか？日本点字図書館が管理し、様々な情報を点字や音声で提供するネットワークで、多くの公共図書館も加盟しています。

県立図書館では、今年度からサピエ図書館に加入し、「視覚障害者等の区分」での利用登録者を対象に、サピエ図書館個人会員登録のサポート及びサピエ図書館資料の貸し出しなどのサービスを開始しました。

○サピエ図書館の個人会員について

個人会員になると、ご自宅にいながら点字図書や録音図書のダウンロードが可能となり、暮らしに役立つ地域情報など、様々な情報も入手することができます。

○サピエ図書館資料の貸し出しについて

サピエ個人会員以外の方でも、県立図書館で点字や録音図書のデータをダウンロードし、貸し出しすることもできます。詳細につきましては、当館HP、または情報班・サービス班へお問い合わせください。

<https://www.apl.pref.akita.jp/guidance/p1352>



県立図書館ホームページ
QRコード
(活字による読書に困難を感じている方へのサービスについて)



サピエ図書館チラシ

埋蔵文化財センターとの連携展示「これってナンダ？謎の出土物たち」

7月15日(土)から8月15日(火)まで、埋蔵文化財センターとの連携展示「これってナンダ？謎の出土物たち」を開催しました。

県内の遺跡から発掘された縄文時代から江戸時代まで装飾品、日用品、呪術的な道具など、一見使い方がわかりにくいものや、作製した目的や用途が不明な出土物が計111点展示されました。

大仙市の星宮遺跡から出土した「遮光器土偶」はじめ、遮光器を身に付けた土偶ばかりが展示されたコーナーは特に人気が高く、なぜ当時の人はサングラスのような遮光器を付けているのか、興味深く観覧する姿が多く見られました。

展示を観た多くの人は、当時の人々がどのような思いで作ったのか、想像を巡らせて楽しく観覧しているようでした。



遮光器土偶



人面付き注口土器

令和5年度(第47回) 秋田県図書館大会

10月6日(金)、「新しい時代の公共図書館ー地域社会と結びついた図書館のあり方ー」をテーマに、県生涯学習センターで開催されました。

始めに、あきた家読ネットワーク代表の原田真裕美氏が「子どもたちが輝く読書活動」と題して基調講演を行い、御自宅に開設した「小さな小さな絵本館」で取り組まれてきた「おはなし会」や「子ども司書活動」など、多種多様な活動についてお話しいただきました。

事例発表では、能代市立二ツ井図書館、北秋田市

鷹巣図書館、秋田市立新屋図書館3館から、地域と連携した図書館活動を御紹介いただきました。



原田真裕美氏による貴重講演



原田氏と事例発表3館との意見交換

「県民読書の日」開催イベント

県が主催する読書フェスタ期間中、11月1日(水)の県民読書の日には、「貴重資料紹介」「書庫見学」のイベントを開催しました。

はじめに菅原館長が講師になり、「伊藤永之介文庫」の解説がありました。今年、生誕120年を迎えた秋田市出身の農民文学作家、伊藤永之介の創作過程をたどりました。また、伊藤永之介の資料が県立図書館に寄贈された過程なども説明がありました。

その後の「書庫見学」では1階と4階の書庫を巡り、1階書庫では、市町村図書館、県立高校・特別支援学校に貸し出すセット資料や明治33年(1900年)元日の秋田魁新報を見学しました。また4階書庫では、「わたしたちの秋田 郷土かるた」や昭和前期に発行された「秋田市有名商店買物廻り 商売繁盛双六」の紹介があり、興味深くのぞき込む姿が見られました。



伊藤永之介の創作過程を解説する菅原館長



貴重資料のかるたや双六を見学する参加者

Pick up

～各班からの話題～

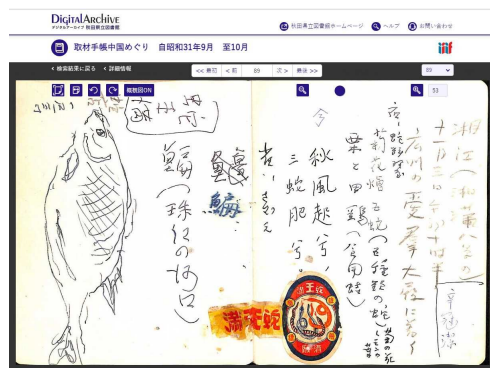
図書資料班

貴重資料「伊藤永之介文庫」のデジタル化について

秋田市生まれの小説家・伊藤永之介（1903(明治36)－1959(昭和34)）による直筆の原稿やメモノートなど、昨年に寄贈いただいた貴重資料についてデジタル化を行い、インターネットを通じて公開しています（秋田県立図書館デジタルアーカイブ <https://da.apl.pref.akita.jp/lib/>）。

写真は、永之介が文化使節として中国各地を旅行した際に使用した取材手帳の一部です。

令和5年3月以降、毎月継続して関連資料の新規登録を行っており、貴重資料の保存・継承に加え、より多くの方への鑑賞機会提供や、学習・研究の充実などに役立っています。



デジタルアーカイブ公開資料「取材手帳
中国めぐり 自昭和31年9月 至10月」

情報班・サービス班

秋田県文化振興課との連携展示

秋田県では全国に先駆けて読書条例を制定し、県民運動として読書活動推進に取り組んでいます。11月1日の県民読書の日にちなみ、当館でもたくさんの方により読書に親しんでいただくため、県文化振興課との連携展示を行いました。

県主催の読書関連イベントのパンフレットやパネルを設置し、取り組み業務やウェブサイト「あきたブックネット」を紹介しました。あきたブックネットでは、秋田県ゆかりの著名人や文化人のおすすめ本「私の一冊」などを紹介しております。次のQRコードからぜひご覧下さい。

館内では、他にも様々な展示を開催しておりますので、詳しくはホームページでご確認下さい。



連携展示の様子



あきたブックネット
QRコード

企画・広報班

第1回がん情報セミナー



がんの治療法や検診の
必要性を語る飯島医師

コロナ禍により休止していた外部機関との連携事業の1つ、「がん情報セミナー」が昨年度より再開しています。このセミナーは秋田大学医学部附属病院、秋田県がん診療連携協議会がん患者相談部会との連携により開催されているものです。

今回は『「がん」について 知り、備えよう！』と題し、秋田大学医学部附属病院の飯島克則医師による講演と、伊藤結貴看護師によるがん相談支援センターの役割や活動の紹介がありました。講演では、秋田県における胃がん、大腸がん検診の現状を写真や動画を交えて分かりやすく解説していただき、参加者の方々も熱心に耳を傾けている様子が見られました。当館閲覧室には、がん相談支援センターの協力により「がん情報コーナー」が設置されており、がんに関する冊子などをご覧いただけます。

Event

～イベント・催し物のお知らせ～

■近代美術館との連携展示

特別展示 中村征夫写真展「顔面博覧会」

近代美術館が所蔵する中村征夫写真パネルから、「顔面」にちなんだ作品をセレクトし展示します。

【期間】 12月14日(木)から1月23日(火)まで
※毎週水曜日、年末年始は休館日

【時間】 午前9時30分から午後5時まで

【会場】 特別展示室

【入場料】 無料